

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

1 開催概要

日 時 令和6年10月30日(水) 18:30~20:25

場 所 浜田市立中央図書館 多目的ホール

出席者 別紙名簿のとおり

2 議事次第

(1) 会長挨拶

(2) 協議事項

石見神楽の保存・伝承に関する提言書(案)について【資料1、2】

3 議事録

(1) 会長挨拶

豊田会長より挨拶。内容は以下のとおり。

豊田会長	これまで5回の会議を重ね、皆様から非常に貴重な意見、コメントをいただきました。このこと自体が非常に貴重な機会だったのかなと思っております。 前回、提言書案について、多くの意見や修正コメントをいただき、大幅な修正、変更がされているところもありますので、ぜひ皆さんにご確認いただき、修正しきれていないこともしくは前回提案できなかったことで追加した方がよいことなどあるかと思っておりますので、ぜひその点も含めて、ご意見をいただけたらと思っております。 よろしくお願いします。
------	---

(2) 協議事項

石見神楽の保存・伝承に関する提言書(案)について【資料1、2】

事務局より資料1、2に基づき提言書(案)について説明し協議を行った。

各委員	「Ⅰはじめに」について 意見なし
小川委員	「Ⅱ現状と課題」について 1の「石見神楽の起源とも言われる」とありますが「石見神楽の基礎基本である」に変更してほしいと思います。 同じく1の「舞の文化」を「伝統的な舞の文化」もしくは伝統的な「舞の文化」に変更してほしいと思います。舞の文化というのは昨今の先進的な舞も含むと思いますので、伝統的なという文言を入れると分かりやすいと思います。 同じく1の「今後、舞い手・楽人や石見神楽団体がなくなる可能性があ

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

豊田会長	るとともに」を「今後、舞い手・楽人が減少し、石見神楽団体がなくなる可能性があるとともに」に変更してほしいと思います。前の表現であると舞い手や楽人がなくなると受け取られると思います。 同じく1の「石見神楽団体ごとに大切にしている舞や信条」を「石見神楽団体ごとに大切にしている舞や伝統」に変更してほしいと思います。 始めの指摘は「基礎・基本」に修正するということによろしいでしょうか。
小川委員	儀式舞が石見神楽で舞われている色々な舞の元になっているということで「起源」ではないと思いますが、基礎とか基本という文言が良いと思いますが、どちらが良いかというのは少し判断がつかないところがあります。 色々な鬼舞や神楽能の中に盛り込まれている元が儀式舞にあり、儀式舞があつてこそ発達したということがあります。「起源」としてしまうと歴史的なニュアンスになってしまいます。
豊田会長 各委員 豊田会長	「基本」の方が良いという意見もありましたがよろしいでしょうか。 異議なし
各委員 豊田会長 各委員	次に「舞の文化」を「伝統的な舞の文化」へ修正、次に「今後、舞い手・楽人や石見神楽団体がなくなる可能性があるとともに」を「今後、舞い手・楽人が減少し、石見神楽団体がなくなる可能性があるとともに」へ修正、次に「石見神楽団体ごとに大切にしている舞や信条」を「石見神楽団体ごとに大切にしている舞や伝統」へ変更というご意見ですが、よろしいでしょうか。 異議なし。 他に意見がありましたらお願いします。 意見なし
各委員	「Ⅲ保存・伝承すべきもの」について 意見なし
浅沼委員	「Ⅳ提言-1 石見神楽伝承団体（舞、舞い手、楽人）の保存・伝承について-」 「石見神楽伝承団体（舞、舞い手、楽人）の保存・伝承に向けて、行政と石見神楽団体が中心となり」とありますが、石見神楽伝承団体と石見神楽団体は何が違うのでしょうか。 また、「花を打つ（御祝儀）文化の継承」とありますが、これは舞の根本ではないだろうという気がします。これは石見神楽のみならず、全国各地でこういった芸能に対して花を打つという風習はあり、観る人の気持ちの

第 6 回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

豊田会長	問題であると思いますが、あえて挙げる必要があるのかと疑問に思っています。
神楽文化伝承室長	石見神楽伝承団体と石見神楽団体には特段違いはないように思いますが、石見神楽団体に統一してもよろしいでしょうか。
各委員	そうすると、「Ⅲ保存・伝承すべきもの」にも「石見神楽伝承団体」という文言がありますが、そちらも「石見神楽団体」へ変更でよろしいでしょうか。
豊田会長	異議なし
小川委員	「花を打つ（御祝儀）文化の継承」について、以前は経営の安定化という観点で入っていて、今回、舞の文化の継承の中に入れていますが、これは観る人の気持ちであり、石見神楽そのものではないというところから削除した方が良いというようなご意見ですがいかがでしょうか。
仲野委員	石見神楽の神楽文化の中に花を打つということが含まれるということなので削除しても私は良いと思います。少し話が逸れますが、事例の紹介として温泉津の夜神楽では受付に御花の袋がおいてあります。浅沼委員が言われたように、花を打つ文化も石見神楽文化の 1 つであるということを取組の中の一つに加えればあえてこれを抜き出す必要はないのかなとは思いますが。
豊田会長	花を打つ文化を修正するかどうかは別として、舞う人の文化はあると思いますが観る人の文化というのがあるのでしょうか。舞う人たちの文化は分かりますが一方で観る側の人たちの文化がもしあるのであれば、一方的にということではなく相互に作り上げていくというようなイメージになってくると思いますので何かそういうものがあれば、挙げて良いのではないかと思います。
仲野委員	私も、観る人の気持ちの問題であるため、ここに敢えて入れるのは違和感がありますが、観る側の文化としてそういうものも大切にしていくということであれば入れておくべきかと思いますが、いかがでしょうか。
山本委員	花を打つことに限らず、石見神楽を継承するに当たり、一般の人たちが関わり、支えている文化というのであればそれも継承していくべきかと思っています。
大賀委員	第 1 回目の会議からこういった花を打つというようなご意見があり最後まで残ったと思いますが、実際に観る側の文化ですんで、残しておきたいという想いもありますが、他の委員の皆さんの判断を聞いてみたいと思います。
	この問題は私も悩んでいますが、先ほど皆さん言われたように、最終的にはお客さんの気持ちの問題で、花を打たずに楽しんでおられる方もおら

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

梅津委員	れます。文化は文化ですが気持ちの問題ということで削除しても良いのかなと思っています。 私もこの花を打つ文化を提言としてまで出すのもどうかと思っていました。先ほど言われたように、観る側の文化としてしまえば、別に花を打つではなくても良いのではないかと思います。 観る側の文化としては、わざわざ出かけて観ることもそうですし、ファンとして舞い手の方の誰かを応援するというのも観る側の文化だと思います。 歌舞伎などと一緒に、ひいきの方にお捻りや祝儀を出すのと一緒に思いますので、花を打つと表現せず、観る側の文化とすると落ち着きどころになるかとも思いました。
大賀委員	もう1点、花については地域によっては、皆さんの前で金額を発表するところもあると思いますが、このご時世ですので、そういうことで揉めることや、ひいきとなるような感じもあります。ここ最近は金額を言わず、名前だけを言って感謝を述べるところが多いと思います。こういった揉める元となることもあるため、削除しても良いかと思います。
丸山委員	皆さんが言われる通りだと思います。個人的には大歓迎ではございますがここまで取り上げるというのはどうなのかなと思います。前回の会議のときに有福神楽保持者会からも「気持ちの問題である」という意見がありましたし、皆さん言われる通り観る人の気持ちの問題だと思います。これを行政に文書として出すのはどうかと思いますので、削除しても良いと思います。皆さんの心の中に文化として残してもらえれば良いと思います。
福浜副会長	例えば、ねぶたや祇園祭などの有名なお祭りは、企業も含めて、それなりに資金の支援をしている状況があります。そういった伝統文化を支えているところが、ここにあって良いのではないかと思います。石見神楽も観る側だけでなく、過去から色々な関係の方以外に、地元の企業や住民が支えているところもあるのではないかと思います。そういった内容がここには入っていないと思います。どのように表現すべきか考えなければいけません。ずっと繋がっているものや維持されているものは、やはり地元の行政だけでなく、企業等がしっかりと下支えをしているのではないかと思います。資金的には言いにくいところがありますので支えるという表現かと思いますが。
仲野委員 豊田会長	例えば神楽を支える風土を継承するというのでしょうか。 非常に良い案をいただきました。「花を打つ（御祝儀）文化の継承」を「石見神楽を支える風土を継承する」に修正するという案ですが、そうすると花を打つ文化を含め、企業の方など地域で支えるというような表現にもな

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

神楽文化伝承室長	ると思いますがいかがでしょうか。 確認ですが、今の「石見神楽を支える風土を継承する」は「② 舞い手・楽人の維持や確保」の項目でなく「① 舞の文化の継承」の方に入れるということでしょうか。
真島委員	「3 「石見神楽を創り出したまち浜田」としての情報発信について」の項目に「石見神楽が市民から応援されるための仕組みの検討」という文言がありますが、それと似ていると思います。
福浜副会長	「石見神楽が市民から応援されるための仕組みの検討」については、ワークショップなどもっと市民の方が直接神楽を楽しんだり、身近に感じるというような意味合いだと感じています。この項目はどちらかという、支援という意味での支えるというふうに理解しています。
神楽文化伝承室長	例えば③の項目を新設し、それを「石見神楽を支える風土を継承する」とするのはどうでしょうか。
豊田会長	皆さんよろしいでしょうか。
各委員	異議なし
小川委員	「石見神楽団体経営の安定化（イベントにおける出演料引上げなど）」とありますが、踏み込んで「石見神楽団体経営の安定化（行政が関わるイベントにおける出演料引上げなど）」現実として行政が関わったり主催したりするイベントがプライスリーダー的なことになっています。実は以前にイベントの出演料が下がったことがあります、これも行政が関わって下がったという経緯があります。その辺が変わらないと民間が主催されるイベントの出演料とかというのはやはり変わらないと思います。逆に、民間が主催されるイベントで高額な出演料をいただけるときもあります。他の委員さんの意見も聞いてみたいと思います。
山本委員	小川委員の意見も身に染みて分かるところですが、私としては今のままくらい少しばかした表現の方が良いと思っています。
大賀委員	山本委員と同じ意見です。
梅津委員	私としては、（イベントにおける出演料引上げなど）の括弧書きはいらないと思います。こうやって例を挙げてしまうとすべて挙げなくてはならなくなります。神社がもらう謝儀は良いが、イベントは出演料を上げてくださいというような注意書きにもなりますので、無い方が良いでしょう。
丸山委員	今のままの表現で良いと思います。
豊田会長	意見が割れるところでありますが、限定するか、イベント等の出演料のみではなく色々な方法による経営の安定化を入れるかというところです。限定をした方がメッセージ性が伝わるのではないかと思います。
小川委員	私の意見としては、括弧書きを入れるのであればということであり、括

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

小川委員 浅沼委員 豊田委員	弧書きを入れないのであれば、それでも良いと思います。 出演料引上げという表現も少し強いと感じました。「イベントにおける出演料の検討」など少しぼかしたほうが良いと思います。 元々は「花を打つ文化」も含め、経営の安定化という文脈で具体例を書いている中にありましたが、限定をしない方が良いという意見、また引上げというのは確かにきつい表現であります。安定化のためには、そういうことも必要ですけど、色々な見方もありますので、今回は（イベントにおける出演料引上げなど）の括弧書きを削除することを提案させていただきますが、いかがでしょうか。
各委員 豊田委員 各委員	異議なし 他に意見がありましたらお願いします。 意見なし
山本委員	「Ⅳ提言-2 神楽産業、ものづくり技術の保存・継承について-」 神楽産業の委員の方に聞きたいと思いますが、「製品」という表現が何か工業的なものづくりという印象を受けますが、「工芸品」というような表現の方が良いのではないかと感じていますがいかがでしょうか。
植田委員 柿田委員	私は「伝統工芸品」としても良いと思います。 私は伝統工芸品に認定されているので良いですが、逆に認定されていない方はどうなるのかと思います。また、伝統工芸も何年以上続けていなければいけないとかありますし、それを生業にしているのかどうかというところまで突っ込むと結構グレーな世界で難しいですが、「製品」よりは「伝統工芸」としてもらった方が良いかと思います。
小林委員 豊田会長	私も同じ意見です。 皆さん「伝統工芸品」の方が良いということでそのように修正したいと思います。
豊田委員 各委員	他に意見がありましたらお願いします。 意見なし
福浜副会長	「Ⅳ提言-3 石見神楽を創り出したまち浜田としての情報発信について-」 この項目は内容が少し弱いかなと思っています。例えば「Ⅱ現状と課題」の3に「観光客（インバウンド含む）に向けては、石見神楽を目的とした浜田市への来訪を促すための情報発信を強化する必要がある」というようなこともあるため、ここは何か付け加えなければいけないと思います。以前、有福神楽保持者会さんから「外国人のお客さんがいるときは、口上の

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

豊田会長	英訳を配っている。島根県立大学の江口教授に作成していただいた」という意見がありましたが、例えば、外国の方や県外の方など石見神楽をまだよくご存じない方のために、分かりやすい神楽の解説、説明を取り入れる必要があるというようなことを入れたほうが良いと思います。
各委員	私もそこまで石見神楽を詳しくない者として、分かりやすい石見神楽の内容の案内というのは、新しく石見神楽を観る人にとってみれば非常に必要だなと思っておりますのでぜひ入れたいと思いますがいかがでしょうか。
豊田会長	異議なし
豊田会長	それでは追加をするということですが、文言については後で最終調整をさせてもらえたらと思います。
各委員	他に意見がありましたらお願いします。
豊田会長	意見なし
浅沼委員	「Ⅳ提言-4 行政における調査研究について-」 「取組の方向性」に「歴史的な石見神楽用具の収集・調査・保存・展示」とありますが、用具以外にも、例えば台本や紙資料など、歴史的な資料も残っていると思います。行政がこういったものを調査研究するとすれば物も含めて全ての調査に携わっていただきたいと思いますので、例えば「石見神楽関係資料」というような表現が良いのではないかと思います。
豊田会長	「石見神楽用具」を「石見神楽関係資料」に修正という意見ですがいかがでしょうか。「Ⅱ現状と課題」の4にも「石見神楽用具」が出てきますのでそこを含めての修正となります。また、「歴史的な石見神楽用具や関係資料」というような方が分かりやすいようでしたらそちらにしたいと思いますがいかがでしょうか。
真島委員	そうすると「Ⅱ現状と課題」の4に「調査研究や資料整理なども不十分である」という表現があるため少し被ると思います。
豊田会長	「調査研究や資料整理なども不十分である」を「調査研究も不十分である」と変更したいと思います。
豊田会長	他に意見がありましたらお願いします。
各委員	意見なし
福浜副会長	「Ⅳ提言-5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について-」 直接施設ということではないですが、以前、石見神楽振興議員連盟からの意見の中に「石見神楽を創り出したまち浜田として、駅前に神楽時計や

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

	石像はあるが、まちとしての雰囲気づくり、演出などが不十分である」という意見がありましたが、まさにそうだと思います。この施設だけが神楽に特化するのではなく、面として、以前も川神委員からも「まちづくり」という意見が出てきましたが、例えばまちづくりに繋がるような表現を入れられないといけないのではないかと思います。まち全体の中のそれをさらに高める拠点というイメージです。提言書の中では「拠点施設が担うべき役割」の項目に入るかもしれません。
仲野委員	例えば、野外博物館というものがありますが、拠点施設だけに行けば満足するのではなく、そこからいろんな神楽の発祥地などの関連する場所にいざなうという役割があっても良いのではないかと思います。
豊田会長	この拠点施設を核としたまちづくりということですね。文言については検討が必要ですが、意味合いについては皆さんよろしいでしょうか。
各委員 川神委員	異議なし
	前回の専門委員会の中でも、拠点施設の話が出てきて、それに関してはグループワークの際には自分たちのグループで出ていないことでしたので、全員の総意なのか確認が必要と思っていました。今回、修正された案は拠点施設の設置が必要ということを更にバージョンアップしています。私も提言書の提出に携わるのは今回が初めてですので、ここまで必要ということと言い切るものなのか、受け取り側が提言を踏まえるとこういった施設が必要と最終的に判断することなのか、ボールがどちらにあるのか、どこが着地点なのかというのは、皆さんの意見を聞いてみたいと思います。
豊田会長	確かに非常に注目される場所であります。どこまで踏み込むのかについてご意見いただけたらと思います。
小川委員	我々、舞い手の立場からすると拠点の話が出るのであれば、ここまでは言っておかなければならないという想いがあり、このように内容が色々出てきているのだと思います。専門委員会の中では「拠点がいます」と終わるものだと思いますが、拠点とはどういうものかという話が出ると踏み込みたくなってしまいます。 川神委員の話からは少し逸れますが、「拠点施設に必要な機能」に「本物の舞を観ることができる舞殿」という表現がありますが、「伝統の舞の文化を観ることができる（体験できる）舞殿」に修正してほしいと思います。5年10年先はいいですが、30年50年先になると、例えば奉納神楽で行っている夜明け舞が各地域でできているのだろうか、その演目を保持することができているのだろうかと思っており、それを保持するためにこういう何か拠点施設で舞っていかなければ夜明けで舞う演目も継承できないのではないかと心配をしています。夜明け舞の文化も大事だという話も出ており

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

山本委員	ましたけども、こういうところで、夜明け舞ができるようなものでなければ、文化の継承ではないと感じています。ということになるとやはり防音機能が必要だと思いますので、「夜明け舞も举行できる防音機能を有する」ということも括弧書きでも入れた方が良いのではないかと思います。 川神委員が言われることも十分わかります。ただ、施設の話をするのであれば内容にも立ち入りたくなります。この専門委員会の中では、「拠点施設が必要です。内容は今後検討してください」で終わっても良いのかもしれませんが。 明らかに提言の中でこの項目が厚くなっていると感じています。当初この専門委員会については箱物ありきではないということで、出席をさせていただいた過程があります。また、箱物を作ること自体を考え直した方が良いのではないかと山間部の意見もあり、その辺はグループワークではっきり言いましたが、この提言書においてこの項目が分厚くなるというのは、金城の連絡協議会を代表する立場としていかにかと思っています。内容を書こうと思えば、小川委員が言われるようにしっかり書かないといけないところでもあります。あくまでもここは建設委員会でもなく保存伝承の専門委員会ですので少し圧縮させるか、におわすような表現にとどめておいた方が良いのではないかと思います。提言書に書いている内容については、施設を検討することとなれば、今後それについての専門委員会もできると思いますので、この専門委員会では施設についての協議がなされたというところまでを提言書に入れていただきたいと思います。
大賀委員	まだ漠然としている内容ですので、「拠点施設が担うべき役割」以降は全部削除しても良いのではないかと思います。
梅津委員	ものすごくデリケートな問題だと思いますが、「拠点施設」と表現するから建物ということになるため、「拠点」という表現にすれば少し緩やかになります。そうすると「V終わりに」に書いてある部分はかなり削除となります。今回は伝承内容の専門委員会ですので、拠点が必要ですということになったといえはなったかもしれないですが、私はどうもそこを認めたくないです。先日新聞にも掲載されていたということでしたが、いかにも建設ありきみたいなことになっているので、この専門委員会からしたら、先走ったことになっているという意見の申し入れをしても良いと思います。拠点は必要かもしれませんが、拠点の内容や組織についても記載すれば、具体的になってしまうので。そこはもう少し緩やかにした方が良いのではないかと思います。
丸山委員 植田委員	山本委員、梅津委員が言われる通りだと思います。 私はあくまでも職人の立場ですので、その辺については何とも言えませ

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

柿田委員	ん。
小林委員	植田委員と同じ意見です。
真島委員	私も植田委員と同じ意見ですが、今後拠点施設を設置した場合に、この拠点施設が過大にならないければ良いと思います。
	私も学校の立場から、特に何も言うことはないですが、ただ今まで、石見神楽の関係資料、用具等が市内各地に散逸している話を伺ったときに、一委員として思うのは、やはりそれを保存する必要があるというのは感じました。ただ、今の拠点施設の話はこれまでの話し合いの流れから色々付随してきたように思います。文化伝承のためにという話が舞う場所なども含めてということでどんどん大きくなっていると思います。先日私が雲南市の「古代鉄歌謡館」の話をしましたが、そういった前例があって、例えばここで私たちが必要であると提言した施設がものすごい大赤字を出すような施設であつたらどうするのかと実は少し心配していました。ですから、そういう前例を学ぶ必要もあるのかなと思ったわけです。
浅沼委員	真島委員が言われるように、これまで色々な意見が出てきて、皆さんのいろんな希望が入ってきていつの間にか拠点施設という話になってきたのだと思いますが、あくまでも1つの手段ということだと思います。方向性としてこういったものもあっても良いのではないかとということで、内容については詳しく検討もしてないですし、詳しく書き込むのはどうかと思います。
仲野委員	実は私は、歴史文化保存展示施設専門検討委員会の委員をしていたことがあります。それが今頓挫しており、施設についてはかなりデリケートだということはよく認識しています。ただ私はいわゆる舞台をイメージしているわけではなく、やはり資料が散逸しているような問題、そして調査研究したその成果っていうのは当然公開していかないといけないです。それはどこでやるかっていうのは、現実の問題としてあるわけです。この拠点施設が担うべき役割とか、持たせる機能っていうのは皆さんおっしゃる通り、後の検討課題にすれば良いと思いますが、今までの議論の中で、そういった古い衣裳などをどこで保存するのかっていうのは、この項目を取ってしまうと、おそらく解決しないのではないかと思います。ですから、ここまで膨らませる必要はありませんが、施設の問題というのはやはり避けて通れない問題です。表現をどうするかというのはあると思いますけども、これを全く隠してしまうっていうのは、今後どうなのかとは思いますが。それともう1つ、歴史文化保存展示施設専門検討委員会のときも、こういった議論がまだ十分熟されてない段階で、マスコミが報道することがありました。また、或いは議会の中でも取り上げられることもあります。それは

第 6 回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

豊田会長	行政の事務局の方でも、少し注意していただく必要があると思います。我々の本意でない形でマスコミが取り上げて発信されてしまうと、きちんとした議論ができないので、そこはやっぱり行政として事務局としてコントロールしていただくことが必要であると思います。
福浜副会長	この項目の前文プラスアルファで具体的なものも入れた方が良いという意見ですね。 皆さんのご意見もとてもです。要は今までも課題があり、その中で石見神楽を後世に伝承していくという体制づくりは、皆さんからたくさんお話いただきました。ただ、その中でこの拠点の設置というのも有効な手段ではないかというのは、皆さんから意見が挙がっていることだと思います。そこに向けて、先ほどの体制も含めた形で、例えば、ただ、他市の事例等を入れながら、調査研究していくということが必要ではないかというところにまとめるのが良いのではないかと思います。それと、もう 1 つ、市民の方々にアンケートをされています。市民の必要なものとして、市民の方々が集える場所っていうのも出ていました。それをこの石見神楽の伝承に直接結び付けるのは難しいですが、そういった意見があるのであれば、施設を考える上では、先進事例を調査するとともに、市民の方々が集える場所を望むということに向けて検討していく必要があるのではないかと思います。
川神委員	大前提は、小川委員の言われるように神楽人としては、みんなそれぞれこんな施設が欲しいという想いは絶対あると思います。僕もあるにこしたことはないと思っていますし、作るのであればこういったものが欲しいという話は色々な神楽関係の人と話をするところです。先ほど副会長が言われた市民の声は大事だと思っています。自分の立場としては、どんちっちサポート IWAMI からこの会議に出ていますが、30 年後に背負っていけるのか怖いというのが、実際の自分の思いです。先ほどの赤字だったらどうするのかという話もありますし、今回の検討の中でも挙がっているどうやって市民に理解を得ていくかという中で、神楽に興味が無い人や、好きではない人から「なぜ建てたのか」と言われたときにきちんと背負っていけるかということを不安に思っています。
豊田会長	色々な意見をいただきました。ただ、石見神楽が抱えている課題の解決方法の 1 つとして、施設と言って良いのか分かりませんが、散在している石見神楽資料を集めて保存伝承していくことが必要というような意見は共通しているのではないかと思います。ここで施設と言って施設がひとり歩きするという心配はありますが、これまでの議論を通じて課題の解決方法の 1 つとして、何らかの拠点施設というものは避けられないと感じて

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

福浜副会長	いるところ。具体的なこの拠点施設というものが、もし建物だとしてもそれが担うべき役割が神楽だけのものにはならず、市民の方が神楽に関わりながら、神楽に特化するのではなく、他の用途にも使えるような施設の検討も必要ではないかと思っております。細かなところは、あまり書かない方が良いのかなという思いも意見もあります。 また、「V終わりに」のところに「拠点施設の検討を具体化される場合には、多くの市民から望まれる施設となるよう、石見神楽団体や石見神楽関連産業従事者を中心とした検討組織を立ち上げるなど、施設の機能や運営体制について検討が必要である」という文章がありますけれども、これは提言のほうに入れた方が良くと思います。 多分、心配されているのはとにかくこれが維持できるかどうかということ、誰が責任を担うのかということだと思います。特に若い方々は非常に心配されるところと思いますが、その検討ができていません。そこをまずこれから行わなければならないと思います。施設を作った方が良くと思いますが、そこをでは作ろうという裏付けをこれから神楽の皆さんと行政と中間的にマネタイズなど諸々の役割を担う方が集まって、さらに検討すべきというふうに捉えています。
小川委員	今、会長副会長がまとめられたような形で意見が出て、拠点施設と表現しない方が良くという意見もありましたが、当専門委員会ではそういったものが必要であろうということで、会長が言われたように「拠点施設が担うべき役割」以下のところを削除し、こういうようなことを考慮されたいみたいという感じで終われば、もしも施設が必要であるという検討に入ったときに、山本委員も言われたようにそのための検討会を立ち上げて話し合いがなされるべきものであると思います。この専門委員会では内容にひどく踏み込むことを書かなければ良いと思います。 1 点、私は浜田の石見神楽連絡協議会から出ておりまして、協議会を代表する立場として、これまでの経緯を説明させていただきます。浜田の協議会はもう 50 年前から市長に施設について申し入れをしています。現在、石見神楽の多様性があり、観光の資源として活用されているところもあります。これはもう否めない部分であり、この地域の大切な民俗芸能としてこの地域を発信するための 1 つのアイテムとして、大いに役立っているということも事実であります。我々も色々な地域、県外にも出かけて舞を舞うわけですが、「もっと深く神楽のことが知りたい」「もっと深く神楽が観たい」というような意見を往々にして聞くことがあります。例えばそれを、どこそこの地域の祭りへ来てくださいますか、というような案内をするのは難しいです。三宮神社の境内を借りて夜神楽を行っています、

第6回石見神楽伝承内容検討専門委員会議事録

豊田会長	あくまでも借りているものですので、総代の方がもう貸さないと決めてしまえば、他にどこでするのかという課題もあるわけです。そういった意味での役割も1つ必要ということもあり、そういう側面も浜田地域の協議会は昔からそういうことに早く敏感に感じて要望を行ってきたという経緯があるということもお伝えしておきます。 地域によっても色々な意見があるというように思いますが、拠点施設を否定しているわけではなく必要だということは委員会の総意なのではないかと考えております。ただ、どういう施設にするのかという具体的な検証はこの専門委員会では元々対象にしておらず不十分であります。先ほどの「拠点施設の検討を具体化される場合には、多くの市民から望まれる施設となるよう、石見神楽団体や石見神楽関連産業従事者を中心とした検討組織を立ち上げるなど、施設の機能や運営体制について検討が必要である」という文章を提言に入れて、具体的なもの「拠点施設が担う役割」以降は、ここの本文には盛り込まず、ただ重要な視点だということも思っておりますので、こういうことが検討されたということを「V終わりに」に追記する、もしくは、付帯意見とする方法もあると思います。 「拠点施設が担う役割」以降を削除し、施設は必要であるがこの検討については、神楽団体の方だけでなく市民も交えて行っていただきたいというような意見を入れて、「V終わりに」は大幅な修正が必要と思います。
各委員 豊田会長	他に「V終わりに」も含め意見がありましたらお願いします。 意見なし 修正と今後の方針についてですが、「IV提言-5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について-」及び「V終わりに」について、今回大幅な修正が必要と考えております。これについて、今回が最後の会議の予定でしたが、もう一度お集まりいただいて会議を開催するか、もしくは、修正したものを文書送付して合意を得るという方法があると考えています。大幅な修正もあるためできればもう一度会議を開催するという事でお諮りしますがいかがでしょうか。
各委員 豊田会長	異議なし それでは、日程等は今後調整します。次回は、今回固まったところの議論は行わず「IV提言-5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について-」及び「V終わりに」にフォーカスして議論を行いたいと思います。